

博多節

博多へ来る時や 一人で来たが 帰りや人形と 二人連れ
博多人形に 思いを秘めて 贈る私の 胸の内

誰に買われて いくとも知らず 博多人形の 片えくぼ
博多見せよか 那珂川見しよか 仇な姿の 水鏡

博多帯締め 筑前絞り 歩む姿が 柳腰
操縦編 命も献上 固く結んだ 博多帯

締めりや泣くから たる手を替えて 解けばまた泣く 博多帯
知らぬ振りして ただ一滴 博多絞りの 落とし紅

諸兄は、博多には新幹線でご来福であろうか、それとも空路でお越し
になりましょうか。左様、一人で来んしゃい。白肌の博多人形の様な
お人と帰れば良いのです。一緒に帰れなくても、きつとその人は秘めた思い
を贈ってくれますよ。

『知り合って短い日々だったとしても、その片笑窪を見れば分りますよ。
中洲を流れる那珂川は、美しい貴女の姿を水面に映し、やがて博多湾に
至ります。ギョツと博多献上織の帯を締めると、腰のくびれは色づぼいです。
その帯の様に一途な思いは、私の心と固く結ばれていますから。』

(姫)
別れの夜に九十九折りに解いた帯を締めなおしても、また悲しくなる
から、涙とともに懐紙に紅を付けて、そつと、あなたにあげますね。

博多花街で唄われる正調博多節を、二節の四季に編みました。
最後の節だけは、私が貴女に書き起こしたものです。



(春)

寄する仇波 いつしか引いて 主と玄海 おぼろ月
何の玄海 船底枕 明けりや博多の 灯が見える
風が邪魔して つがいの蝶も しばし菜の花の 裏に住む
千代の松原 傾く月を かけて一声 ほととぎす

(夏)

博多山笠 締め込み法被 シヨとしごいた 力綱
意気地づくなら 命もままよ 博多小女郎の 未じゃもの

(秋)

博多柳町 蛇の目がけぶる 明けの別れの 涙雨
何を偲びて 鳴く小夜千鳥 博多小女郎の 夢の跡
御衣を捧げて 泣く秋の夜に 月がさし込む 榎寺
君を松原 月さえ臙 名所名島の 波の音

(冬)

飽かぬ別れに 今日この頃の 瘦せを覚ゆる 博多帯
蒙古十万 沈めた海と 聞くも勇まし 波の音
博多よいと 朝日に映えて 松と竹とが 西東
西に小春を 思ひて待てば 東の雪も寒からじ



令和二年七月二十五日

大中臣正比呂 編